

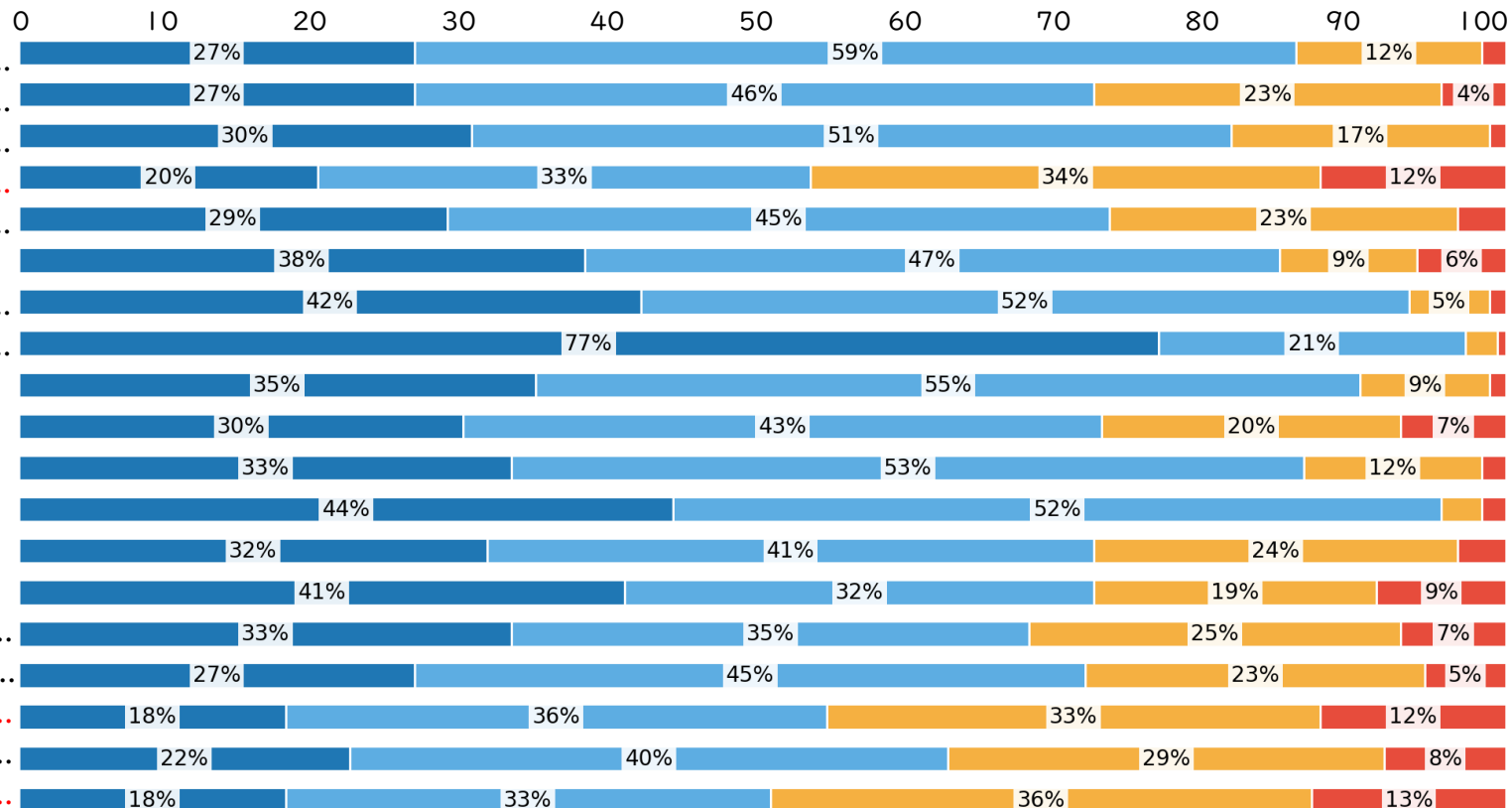


令和7年度

～豊かな心と豊かな知性をそなえ、たくましく生きる生徒の育成～ 京都市立九条中学校 学校評価アンケート 【後期：生徒】





令和8年2月20日
京都市立九条中学校
校長 川島 浩明

※質問項目は裏面参照



後期学校評価アンケートから、学校生活全般については、生徒の多くがクラスや学校の雰囲気に安心感をもち、学校行事や日常の活動にも前向きに取り組めており、学校生活は概ね安定していたといえる。また、友人関係に関する設問では肯定的な回答が多く、「思いやり」「助け合い」といった他者との関わり方に関する規範意識が育っている点は、本校の大きな強みとして確認できた。生徒同士のつながりや、落ち着いた学校の雰囲気が、学習や生活の基盤としてしっかり機能していることがうかがえる。

その一方で、課題として表れたのは、家庭学習・生活リズム・端末利用のコントロールといった自己管理の領域である。特に「家庭学習の継続」「睡眠時間の確保」「端末利用時間の調整」などは肯定率が伸び悩んでおり、これらが互いに影響し合って生活全体の質を低下させ、学習意欲や集中力に悪影響を及ぼしていることが読み取れた。とりわけ、夜間の長時間端末利用は睡眠不足につながり、生徒の情緒の安定や授業への集中にも影響し、結果として学習習慣が定着しにくい状況を生み出す要因にもなっている。これらは日々の生活と学習の質に関わる重要な課題と捉える必要がある。こうした結果を踏まえ、次年度に向けては、まず授業と家庭学習をより効果的に結びつけ、生徒が学びの「見通し」「つながり」「達成感」を得られるような指導の実践が必要である。授業内での学習計画の共有や、取り組みやすい課題の設定など、成功体験を積み重ねられる仕組みづくりを推進したい。生活面では、早寝・早起き・朝食の徹底といった基本的な生活習慣を整えるため、睡眠の大切さを理解させる保健指導をさらに充実させる必要がある。これに加え、昨年度から取り組んでいる「たてわり活動」をより効果的に機能させ、小さな成功体験を積み重ねる機会を増やすことで、生徒の自己肯定感をより一層高めていきたい。仲間同士で良いところを認め合う活動を意図的に取り入れることで、挑戦を後押しする雰囲気を生み出し、努力や頑張りが見えられ、賞賛される温かい学校文化を醸成したい。以上のように、次年度は、本年度の成果である「安心して過ごせる学校風土」を基盤とし、学校・家庭・地域が連携、協働し生徒の成長を多面的に支えることが出来る体制づくりを推進したい。

◆グラフの見方《達成度 %》  よくできている  大体できている  あまりできていない  できていない

◆学校評価アンケート項目【生徒】

- 1,課題の解決に向けて、自分で考え、取り組むこと
- 2,自分の考えなどを工夫して発表すること
- 3,学校で基礎的・基本的な学習が定着できること
- 4,普段の日に、予習や復習など自主的に家庭学習に取り組むこと
- 5,総合的な学習で、すすんで課題に取り組み発表すること
- 6,学校に行くことが楽しい
- 7,相手のよい面を認め、思いやりの心を持つ
- 8,いじめはどんな理由があってもいけない
- 9,人が困っているとき進んで助けること
- 10,自分には良いところがある
- 11,進んで挨拶をすること
- 12,学校の決まりやルールを守ること
- 13,なにごとにも失敗を恐れず挑戦すること
- 14,将来の夢や目標をもつこと
- 15,健康な体づくりやスポーツに取り組むこと
- 16,基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)を身につけること
- 17,ゲームや携帯電話・スマホなどの使用時間を適切にコントロールすること
- 18,翌日に疲れを残さない睡眠時間を確保すること
- 19,地域の行事や社会の活動などに取り組むこと